

AAOSに参加して

城山病院 河上 剛（平成13年入局）

2013年4月、三幡輝久先生から、「鎖骨骨折の治療成績について症例をまとめてアメリカの学会に出しませんか？ 海外では主にプレート手術での報告がほとんどで、大阪医大で行っている経皮ピンニング手術の報告はほとんどないため、アメリカでも必ず発表出来ると思います。」との連絡をいただきました。最近では国内外ともにプレートを用いた鎖骨骨折治療の報告が多く、ピンニング手術の報告は少ない傾向にありますが、大阪医大の関連病院では、同門会の大先輩である安永 博先生（昭和51年入局）が考案された経皮的ピンニング手術（安永法）を行うことが多く、非常に良好な治療成績が得られています。私自身、一昨年まで阪大系列の関連病院へ向した経緯もあり、安永法だけでなく、プレート手術の治療経験ならびに過去の症例を集めることが出来たため、今回、経皮ピンニング手術とプレート手術との比較検討を行い、それをAmerican Academy of Orthopaedic Surgeons(以下、AAOS)に投稿し、発表する機会を得ることが出来ました。

2014年のAAOSは、3月11日から15日まで、アメリカニューオーリンズで開催されました。ニューオーリンズはジャズ発祥の街で、全米でも有数の観光



都市です。フランス、スペインの植民地時代の街並みを残すフレンチ・クォーターの一角は、昼はあらゆるところでトランペットやトロンボーンが鳴り響き、夜になるとそこは歩行者天国になり、毎夜たくさんの観光客や地元の人で賑わっていました。

学会は、フレンチ・クォーターから少し離れたコンベンショナルセンターで行われましたが、とにかく学会場が広く、端から端までゆっくり歩けば15分以上かかるほどでした。慣れない革靴で移動していたため、3日目以降は靴ずれができてしまい足を引かず歩いていました。肝心の発表ですが、何とか質疑応答まで対応したいと思い、英会話教室に約半年通い、朝起きてラジオ英会話を聞き、『1ヵ月で話せる英会話』みたいな参考本をいくつか読み、努力はしてみました。結局、発表原稿を読むのが精一杯で、数人に質問されましたが全く聞き取ることが出来ず、三幡先生がすべて対応してくれました。三幡先生がいなければ大変なことになっていましたが、何とか無事発表を終えることができ、何とも言えない安堵感と充実感があったことを今でも覚えています。発表が終わると、身も心も軽くなり、講演やポスター会場に足を運んで少し勉強し、機械展示



場なども回ってAAOSならではの雰囲気を楽しむことが出来ました。

ニューオリンズは2005年8月に発生したハリケーン・カトリーナの影響で陸上面積の約8割が水没し、今でも復興が進んでいない地域が多く残っており、郊外に出ると治安が良くないとのことでした。そのため、ニューオリンズに滞在中は、ほとんどフレンチ・クォーターと学会場周辺の散策しかしませんでした。それでも発表が終わった後は少し羽を伸ばし、同じ肩班として学会発表された長谷川先生とNBAバスケットボールを観戦したり、同じく学会発表された藤澤先生と地元で人気の肉料理店やJazz Barに行ったりして、国際学会ならではの醍

醐味を味わうことが出来ました。

今回、このような名誉ある学会に発表する機会を与えて頂き、英語指導やスライド作成など何から何までご指導頂きました三幡先生、現在城山病院で日々ご指導頂き、貴重なアドバイスや海外出張費へのご配慮まで頂いた阿部宗昭名誉教授、色んな面でご迷惑をおかけしたにもかかわらず、温かく支えて頂いた熊野部長、城山病院の先生方には心より感謝申し上げます。学会発表からはや3ヵ月が過ぎようとしていますが、今回発表させていただいた安永法に関する発表を英語論文に仕上げるまでが自分の課題として残っております。諸先生方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

